

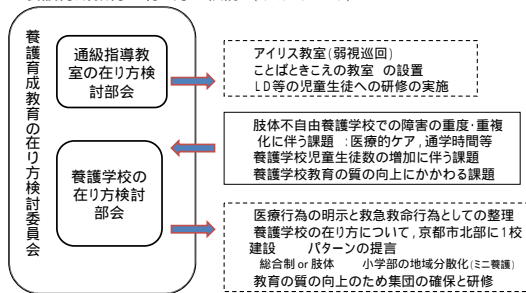
個別の包括支援プランに基づく教育課程 ～ 経過と考え方 ～

1 総合制の構想

～養護学校のあり方の検討から
文部科学省指定研究へ～

(1) 障害の重度・重複化、多様化への対応

養護育成教育のあり方の検討 (平成4年～7年)



(2) 養護育成教育(養護学校)の在り方の提言

養護育成教育の今後のあり方プロジェクト (平成8年～11年)

北部に1校新設(7校)。総合制、企業就職をめざす生徒への対応。

個別の指導計画に基づく教育課程編成

- 障害種別を越える、個に焦点を当てる
- 知的障害と肢体不自由のノウハウの適用

必要な時に必要なことを

地域と結びつけた教育の創造

- 施設開放等地域とのパートナーシップ、地域資源の活用
- センター機能による地域貢献から地域のセンターへ
- 交流教育の推進

生活の主体者として

子どもや保護者のニーズに応える体制の整備

- 医療的ケアや通学時間短縮等への対応
- 企業就労等の多様なニーズに応える体制作り

個々のニーズへの対応

→ ノーマライゼーション理念の具体化・新しい障害観 教育観

(3) 総合制養護学校における教育課程研究

<平成12～14年度> 第1次指定

- 障害種別の枠を超えた養護学校の教育課程の理論構築(個別の指導計画)
- 学校組織等基礎構造改革プランの提示 (3部体制)
- 専門性の構築とセンター機能の関連 (~ 2次指定)
- 教員のキャリアアップのための研修の仕組みの提示 (~ 2次指定)

<平成15～17年度> 第2次指定

第1次指定で構築した理論の実践的検証

1校を新設し4つの総合制・地域制養護学校に再編
職業学科高等部の設置 デュアルシステム (H16.4)

- 「個別の包括支援プラン」の運営の実践
- センター運営とそのあり方についての検討
- 総合支援学校教育の評価の検討

(4) 総合支援学校の役割

京都市における総合支援学校の役割

⇒ 障害のある子どもの相談・支援の中核としての機能

- 教育内容、指導方法等のリーダーシップ
- 地域の障害のある子ども・保護者の相談・支援
- 幼・小・中・高校、施設等の教育充実のための相談・支援
- 専門性、人材育成の支援

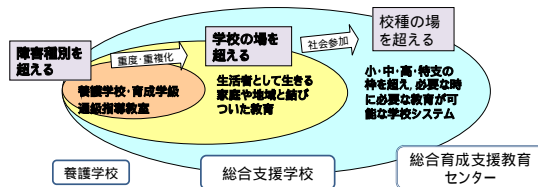
小・中学校等への支援 … 「育」支援センターの設置

- LD等の子どもたちに係る相談・支援
 - * 学校サポートチーム、発達障害支援室(教委)との連携
- 小・中学校等の教育に係る相談・支援
 - * 肢体不自由学級、通級指導教室との連携
- 就学相談、教育相談、子育て相談、他

(5) 総合制構想の基本的な考え方

3つの場を超える

- ノーマライゼーション理念の実現に向けた取り組みであること
- 重度・重複化、多様化 個別の指導計画作成 障害種別を超える
- ICF 障害に基づく種々の困難の改善・克服 社会参加・生きる力
- ノーマライゼーション インクルーシブな教育 できるだけ地域で



2 教育課程と学校運営

～総合制教育課程の基礎理論～

(1) 研究開発学校の取組 - 1

親学問や親芸術に向けた知識・技能の獲得をめざした「教科・領域」を中心とする普通教育に準じた基準設定ではなく、発達と障害の特性等を踏まえたねらいと目標(目標に準拠した評価)で基準を示すことのできる教育課程の研究

学習が学校の中だけで完結するのではなく、自立と社会参加の過程にある子どもが、家庭や地域で生活する上で、どのような支援が必要か、関係する者がともに考えるシステムの研究

子どもの学習の系としての縦のつながりと横の広がり
同時にこの発想を支える学校内の組織上の受け皿の研究

総合養護(支援)学校を含む地域を面としてとらえ、「障害のある市民」, 「地域に生きる生活者」が生きていく上での「面ぐるみ」の支援システムの研究

学校と地域・家庭との「継続性」と「連続性」を図る教育課程上の工夫
地域の障害のある子どもたちに対して社会資源としての機能を学校が展開すること

(1) 研究開発学校の取組 - 2

教育課程研究の視点

児童生徒の社会参加・自立に向けた教育内容の検討
総合制養護学校を支える教育基盤の整備

- 最も適切な内容・方法・携帯で、必要な時期に必要な教育を行うことのできる教育課程と学校システムのあり方
- 肢体不自由と知的障害の養護学校が培ってきた専門的な指導内容・方法が互いに補完しうる教育課程の実施に向けた「個別の指導計画」のシステムのあり方
- 一人一人の児童生徒の実態把握の方法、指導内容、グループ編成、教材教具の開発、評価、個別の進路指導計画等についての研究
- 地域に開かれた養護学校のあり方についての研究
 - … 地域との連携(教育相談センター機能、コミュニティスクール等) 交流教育、分掌組織、行事の検討等

「個別の包括支援プラン」を中核とする、教育課程・学校運営

(2) 総合制教育課程の研究 - 1

テーマ:

障害種別の枠を超えた教育課程のあり方の研究

<留意点>

- 一人一人の子どもが自立する過程を支援する
- 生活年齢を大切に(それぞれのライフステージで期待される姿をその子なりに実現する)
- 発達や障害、家庭環境等はそれぞれの条件と捉え、それぞれの時期に、これまでのノウハウを総合的に投射し、必要な支援を行い、教育課題の多様性に応じる
- 個別の指導計画に基づく教育課程編成と、その運用を可能にする学校経営組織の検討を合わせて行う
- 学校総体として、指導の専門性を担保する

(2) 総合制教育課程の研究 - 2

発想の転換(意識改革)を

- 教育課程改革 個別の包括支援プランに基づく一人一人の教育課程作りと、多様で効果的な集団構成による指導
 - 集団の目標から指導内容を個別化し、個々の指導計画を作成するのではなく、個人のニーズから学習内容を組織し、多様な集団を構成して指導を行う
- 学校組織改革 個別の包括支援プランに基づく教育課程を運営でき、地域に信頼される専門性のある組織としての学校へ
 - 学校として多様な専門性の保障と校務分掌から機能に基づく経営組織に
- 教職員・保護者の意識改革 子ども環境要因、組織の一員として、ポジションワークと自己研鑽に励み、協働して子どもを育てる意識
 - 学校・保護者・地域が地域で協働して育てるその子なりの「生きる力」の育成

個別の包括支援プランをツールとする学校経営
= 障害のある子のセンター施設としての総合支援学校の志向

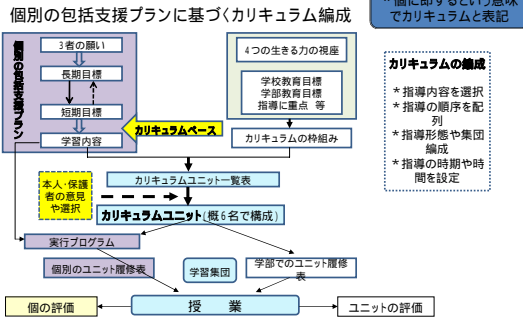
(3) 教育課程編成の基本理念

- 必要な時に必要なことを
 - 個別の指導計画に基づく教育課程編成
 - 障害種別を越える、個に焦点を当てる
 - 知的障害と肢体不自由のノウハウを適用する
- 生活の主体者の育成
 - 地域と結びついた教育の創造
 - 施設開放等地域とのパートナーシップ、地域資源の活用
 - センター機能による地域貢献から地域のセンターへ
 - 交流教育の推進
- ノーマライゼーション社会の実現への寄与
 - 学校の枠を超え、子どもや保護者のニーズに応える体制の整備
 - 医療的ケアや通学時間短縮等への対応
 - 企業就労等の多様なニーズに応える体制作り
 - 援助システム等、地域連携と地域資源の拡大

(4) 教育課程編成の基本事項

- 学習内容の個別化 …… 個別・具体的意識化と実現
 - 個別の包括支援プラン
 - 一人一人のニーズを基に、保護者や関係者の意見も入れ学習の内容・方法・学習の場を個別に作る
- できる子としてとらえる …… 地域資源の拡大・啓発
 - 学びの変化・地域と結びついた教育
 - できるための環境設定の工夫により、「できる」学習内容を設定し、自己の生きる形の確認から、自信を持って生活する姿へ
- 生活者としてとらえる …… 援助者としての保護者も視野に
 - 地域連携・生涯支援
 - ADLからQOLへ(社会参加に必要な力=生きる力を育てる)。
 - 「なりたい自分になる」ための支援(願い・自己選択・自己決定・自己責任とそれを支える地域ネットワークの志向)

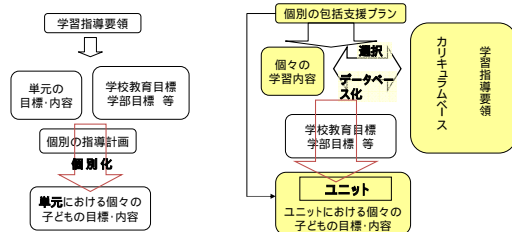
(5) カリキュラム編成



(6) カリキュラムユニット - 1

カリキュラムユニット(ユニット)

個々の子どもの短期目標を達成するための学習内容を一定の履修期間を定めた上で組み合わせ、共通したニーズの高い学習内容を中心に、1つのまとまりのある学習活動にしたもの



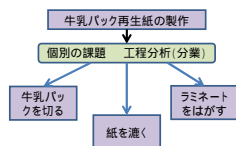
(6) カリキュラムユニット - 2

ユニットとは …… 単元との比較

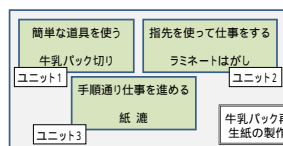
	定義	指導形態等	備考
単元	指導要領に示される目標と内容から出発した学習内容のまとまり	一定集団、一定期間、共通の活動から内容を個別化(分化) …… 題材先行・内容の個別化	行事単元や課題単元、各教科の単元等
ユニット	個々の児童生徒の目標があり、その目標を達成するために求められた学習内容のまとまり	学部や学年を母集団として、概ね4名程度で構成。個人で履修期間や内容が異なり、複合されたユニットもある …… 目標先行	保護者の選択を絡むユニット、学習集団ベースの更新が必要

ユニットの設定 …… 作業学習を例に

<従来の発想:分化>

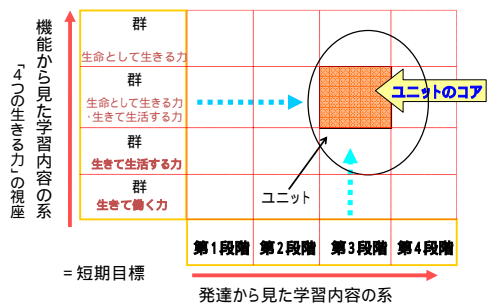


<ユニットの発想:合成>



(6) カリキュラムユニット - 3

カリキュラムベースとユニット



(7)カリキュラムベース - 1

生きる力について (基礎・基本となるもの 社会性・生活の幅を広げるもの)

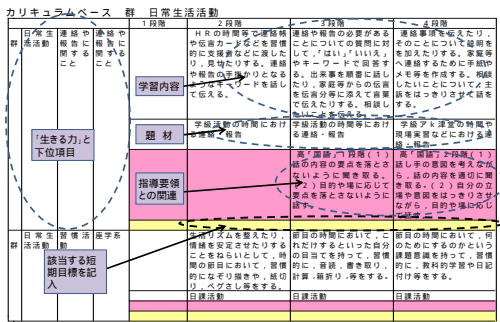
群	生きる力	含まれる内容
生命として生きる力	基礎的機能 (運動・感覚の基礎に関するもの、他)、健康・安全 (交通等含む)	
生命として生きる力 ～生きて生活する力	日常生活行動 (身辺処理や会話の基礎等)、発達を促す等基礎的機能の伸長をねらいとする遊びの学習 (お話、運動、造形、乗り物、図画、他)	
生きて生活する力	集団への参加、遊び・余暇利用、自立的な家庭生活、自立的な社会生活、知的障害の各教科	
生きて働く力	働く技能の成長、働く姿勢・態度、働く意欲、生活や就労の知識、技等	

発達 (「できること」ではなく、生活の中で「その人が使える手段」「やり方」の高度化)

段階	発達	内容
1	身体の動きと感覚・知覚	重度・重複障害の児童生徒等、刺激の受容等による外界認知
2	身体の動きと感覚・知覚 ～探索行動	自らの行動・行為、経験を内化・イメージ化する段階、指差しやジェスチャー、簡単な話し言葉によって外界を認知・構成
3	探索行動と認知	会話が成立し、シンボルとしての言語で外界を認知・構成
4	活動の把握とルールや法則性の理解	主として高等部生徒、文字や数量の理解等抽象的な概念 (萌芽的段階～) によって外界を認知・構成 ～ 準じる課程まで

(7)カリキュラムベース - 2

カリキュラムベースの構造



(8)カリキュラムベースとユニット - 1

ユニットを作る視点 京都市立総合養護学校経営の手引き (応用編)より

カリキュラムの基本構想

生活年齢が進むにつれ、これまでに獲得している力を集団生活や実社会の中でどう活かしていくのかといったことに力点が置かれていきます。生活年齢を認識することで、項目は、群から、群、群に移っていくことになります。それと同時に、基礎的な機能の状態がほぼ定まってくることにより、一人一人のライフスタイルの違いがより明確になり、群、群の履修割合が定まってきます。
 …生活年齢らしさが感じられるような題材をモチーフとして取り扱い、年齢にふさわしい気持ちや育つように図る必要があります。

このことは、その年齢段階にふさわしい生活の実現として学部目標等に示される必要があります。…小学部段階では、学校での生活を中心として、家庭と連携して、基本的な日常生活習慣の形成や、基礎的な体力、生活リズムの確立に重点を置き、基礎的な力を遊びを通して意欲的に獲得していくように、中学部段階では、学校と家庭から地域への広がりを視野に入れ、学ぶ場面の切り替え、状況の変化への対応などの力を様々な集団の中で共に活動していくことで身に付けていけるように、高等部段階では、卒業後の働くこと、生活を豊かにしていくことなど支えられつつも一人で社会参加していく力を培うための経験を積み、卒業後のライフステージへの移行を図れるように、それぞれカリキュラム編成していく…中略、…こうした基本理念は、学校教育目標や学部教育目標、指導の重点等として明確に示される必要があります。

(8)カリキュラムベースとユニット - 2

カリキュラムベースと学習内容

- 基礎学習 … コンデショニング、ベースメントスタディ
 群の学習内容のみで構成される、「個」としての学習活動。行動の基礎を作る学習
 ・基礎的機能 … 適応的な行動を形成する際の基礎となる心身の機能
 生理的基礎、環境の把握、パフォーマンス、コミュニケーション
 ・健康・安全 … 健康の維持・増進、医療機関の利用、危険物の取扱い、交通安全等
- 基本生活学習 … 基本的な生活習慣の学習、個別課題学習
 群の学習内容をコアとする学習活動。習慣・ルール・マナー等文化的な側面を加え、生活を形作る学習、興味・関心を広げ自らの世界を広げると共に、社会性の基本を学ぶ
 ・日常生活活動 … 姿勢、移動、身辺処理、食事、挨拶、会話、日誌の理解、報告や日記、ランニングや体操、文字や計算等
 ・発達を促す遊び … 運動遊び、感覚遊び、お話遊び、造形、道具の使用、乗り物や校舎等での遊具遊びなどの、関わりや体験遊び、ごっこ遊びやロールプレイ、劇遊び等

(8)カリキュラムベースとユニット - 3

- 生活学習 … クラススタディ、ライフスタディ
 群の学習内容をコアとする学習活動。集団や社会との関係の中で取り組む活動、文字や数概念等の基本的なスキルも生活課題と関連付けて学習する。教科の内容もある。
 ・集団への参加 … 学級活動、宿泊学習、清掃・美化活動、役割活動、特別活動
 ・遊び・余暇活動 … 屋内・屋外での遊びや友達とのゲーム、乗り物や球技、ハイキングや映画鑑賞、文化的・体育的サークルへの参加、買物
 ・自立的な家庭生活 … 掃除・整理・整頓、洗濯、衣服の購入、調理や食事の知識、来訪者への対応や電話の利用、金銭処理・管理、防火・防犯、結婚や育児、看護や介護、郵便、クレジットカードの利用
 ・自立的な社会生活 … 買物 (商品) の選択、飲食店やレジャー施設、公共施設の利用、交通機関の利用・外出、挨拶や会話 (敬語等)、身近な法令、知的障害の教科の内容

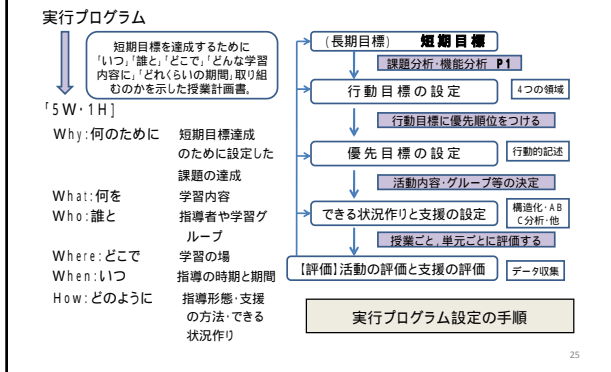
- 働くことの学習 … ワークスタディ、プレーストスタディ
 群の学習内容をコアとする学習活動。… 群の学習内容を総合的に取り扱う
 ・働く技能、知識、意欲、態度を育てる学習
 ・生活就労支援、福祉事務所や年金の知識と活用、実習、資格取得の学習

(9)カリキュラム時間割例

カリキュラム基本時間割例 (H20・中学部)

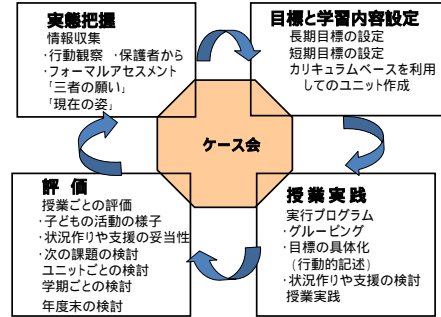
	月	火	水	木	金
1	基本生活学習・教科別学習 (個別課題学習、自立活動課題)				
2	基礎学習	基礎学習	基礎学習	基礎学習	基礎学習
3	ワークスタディ ライフスタディ 教科別の指導	ワークスタディ ライフスタディ 教科別の指導	基礎学習 総合的な学習	教科別の指導 ライフスタディ 教科別の指導	基礎学習 教科別の指導 ライフスタディ 教科別の指導
4	基礎学習				
基本生活学習 (給食)					
5	クラススタディ 基礎学習	ワークスタディ ライフスタディ	ライフスタディ	クラススタディ 基礎学習	ライフスタディ
6	基本生活学習	ワークスタディ ライフスタディ 教科別の指導	基礎学習	基本生活学習	教科別の指導
		基本生活学習	基本生活学習		基本生活学習

(10) 実行プログラム (授業へ)



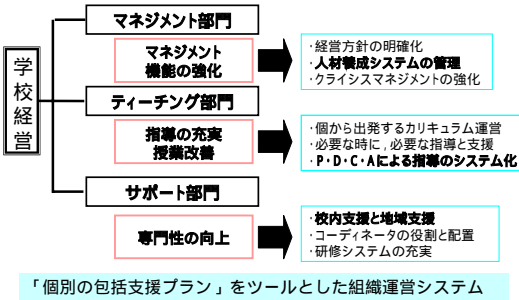
(11) カリキュラムとPDCAサイクル - 1

包括支援プランの運用



(12) 教育課程の実施を支える組織

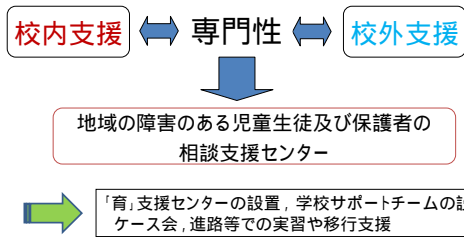
< 経営システムの基本的な考え方 >



(13) サポート部門 (センター機能) - 1

センターの役割 = 校内・校外への支援

< 取組の双方向性 >



3 北総合支援学校

～ 教育課程の実施 ～

(1) 学校経営計画 - 1

< 教育目標 >

一人一人に、自立と社会参加の基礎となる生きる力を育成し、
みんなとともに、自分らしく生きる子どもの姿を実現する

< 目指す子ども像 >

生き生きと生活する子ども
自分から、自分で、自分らしく、みんなとともに生活する子ども
主体性 自立 自己の確立 社会性・協同性

< 指導の重点 [中期的目標] >

「人間力の向上を目指し、生活における基礎的な課題解決力及び言語力の育成を図る」

< 生活における基礎目標 >

「自分から、自分らしく、I・P・Oに応じた行動ができる子ども、
・ 周囲の人に挨拶や感謝の表現ができる
・ 身だしなみや服装に気を配り、自己表現できる

(1) 学校経営計画 - 2

< 学校経営の基本 >

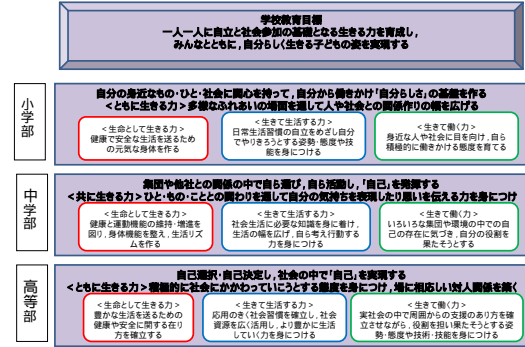
「成逸地域にねざした北総合支援学校の文化と伝統の創造」

< 目指す学校像 >

ノーマライゼーションの具現化に向けて、
総合育成支援教育をリードする学校

地域とともに歩む学校 …… 生涯に亘る支援、地域の教育資源
高い専門性を持ち、市民・保護者に信頼される学校 …… 専門性
子供が安心して生きる力を育む、安全で楽しい学校 …… 学習、安全
鋭い人権感覚に基づき、一人一人の子供が大切にされる学校
…… 人権文化
組織的運営と効率的経営に取り組む学校 …… 経営効率

(2) 教育目標



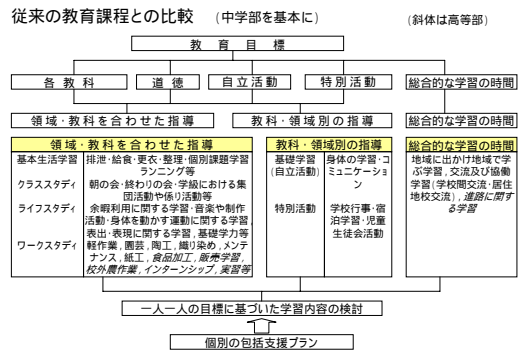
(3) 教育課程編成の基本的事項

* 個別の包括支援プランに基づくカリキュラムの基本的事項

< 基本的な考え方 >

- 1) はじめに子どもありき
一人一人違って当たり前、教育はサービス
- 2) できる存在としてとらえ
生活の主体者、自信・自己有用感・責任感の育成
- 3) ADLからQOLへ
社会参加(援助システム)、地域支援ネットワーク
- 4) ライフスタイルの重視
その子の生活・生涯支援・「今」の視点
- 5) 保護者・地域との協働
地域で育てる、各パートの役割の明確化

(4) 教育課程の比較



(5) 学級編成の考え方

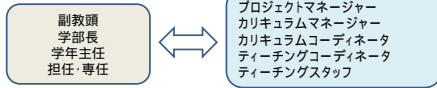
学部	指導上のポイント	集団構成の在り様
小学部	低	学校生活の基礎、基本的生活習慣を担任との関係で確立 [学級] [学年]
	中	基本的生活習慣を確立し、担任との関係から友達との関係へ発展 [学級] [学年] [他学年]
	高	学級・学年から他学部等の学習グループへと展開。文化・自治活動へ [学級] [学年] [他学年] [学部外]
中学部	学級 = 社会集団の単位としての機能の明確化。学級以外の集団への所属感を養う。基礎学力、自治活動、文化活動から働くこと・余暇利用へ	3人を基準に配当 [級] [年] [部] [外] 4~5人を基準に多様化
高等部	生徒集団の関わりの中で自己理解、集団の一員としての社会的自己確立。個性の伸張・自律・働く力(生活自立・社会的自立)、移行支援	[級] [年] [部] [外] 6~7人を基準に多様化

(6) 指導の考え方

- ◆ 子どもをできる存在としてとらえる
できる状況の中でできることを増やし、自信をつける
行動分析、発達の状態や障害特性の理解に基づく指導
- 「子どもを動かす」のではなく、「子どもが動く」指導
したいこと・できることの把握 (発達や障害特性の把握)
- 支援は特別なものから一般的なものへ
「やってみたくなる環境設定」
わかりやすい、成果の見える環境の工夫
柔軟で多様な学習集団での指導(集団や場の柔軟性)
- 個別・具体的徹底
個々の子どもの焦点化・行動的記述
自立(自律)をめざす
できるようにする支援
集団の構成や指導の場を工夫し、社会化を目指す

(7) 教育課程実施の仕組み

教育課程を支え、実施する組織体としての学校の創造 点検を！
 分掌と機能



ポジションワークに応じた専門性と能力の開発

- 各ポジションに必要な専門性・能力は何か キャリアアップと自己点検
- 専門性と能力の向上に向けたシステムとは

横並び意識の払拭、毎日の行動の違いの明確化 皆同じ
 必要な会議の定例化、責任意識と出来る工夫

学校全体としての経営状態の点検

教育課程実施上の課題の明確化と手立ての明確化
 組織の役割、組織間の連携、組織運営のスケジュール(目的)の明確化

全教職員が、共通の目的に向けてポジションワークしているか、協働しているか

(8) 再点検を～共に学ぶ、地域で学ぶとは？

当たり前の確認 … 共に学ぶとは？ 地域で学ぶ理由は？

- … 障害種別の教育 or 総合制の教育
- 総合制とは何か … 総合制は複数の障害種を合わせたものか？
 - … 重複障害と言われる子ども、多様なニーズのある子どもの集団分けられない存在としての子ども … 物事を見る基準は何か
- 子どもの見方・捉え方は … 教育の目的、生きる力と障害の関係は？
 - … 障害を見る or 子どもを見る
 - 教育を考える基盤 … 教師の都合 or 子どもの生活
- 生きる力が育まれる場合は … 学校の役割は？ 生涯支援に位置づければ？
 - … 学校 or 家庭 or 地域 … 実証的に評価できているか
 - 学校の特異性をどう考えるか … フェードアウトを図っているか



従来の学校文化からの脱却を

38

(8) 再点検を～専門性・指導力とは？

総合制(特別支援)学校(教育)に求められる専門性・指導力

専門性・指導力とは何か？ … キーワードとしての機能

- 専門性を違う言葉で言えば(要素と全体)

ex) 知的障害の専門性と肢体不自由の専門性

- 専門性・指導力がある(高い)状態とはどんな常態か

ex) 知的障害の専門性と肢体不自由の専門性

総合制になると何が違うのか？ … キーワードとしての多様性

- 複数の障害種への対応とはどういうことか(従来と異なる必要な専門性・指導力)

ex) 「個人レベル」と「集団レベル」(対応する者 and される者)

専門性・指導力はなぜ必要なのか？ … キーワードは発想の転換

- 専門性・指導力を求めている者 求められている者は誰？

- 学校の専門性(学校へのニーズ)と個人の専門性の分離

ex) 学習の主体と支援の主体、市民(ユーザー)からの期待

ポジションワークとしての専門性・指導力とは何か？

- 開かれた学校とは 市民の目と市民の協力 自己の姿勢

- 組織の理解と実践の必要性 学校、教職員評価、学校運営協議会

39